

図書館・郷土資料館だより

図書館 問・申 ☎(61)3002
 休館日 2/3・6・10・17・25
 郷土資料館 問・申 ☎(61)4700
 休館日 2/1・3・10・17・25

図書館情報

児童文学講演会
 『かこさとし 創作の原点』
 鈴木 万里氏

「だるまちゃん」とてんぐちゃん
 『からすのパンやさん』などの絵本でおなじみのかこさとしさんは、600冊以上の作品を世に生み出し、惜しまれつつ一昨年旅立たれました。かこさんのご長女が、創作の原点と作品に込められた背景や思いを伝えます。



▼とき 3月7日(土) 14時～15時30分
 ▼ところ 図書館本館2階大会議室
 ▼講師 鈴木 万里氏(加古総合研究所取締役) 2003年から加古総合研究所に勤務し、父の創作活動を支える。現在は父の作品の著作権管理のほか、遺志を継いで講演・展覧会等で精力的に全国を回り活動している。



撮影・加古総合研究所

《かこさとし》
 1926年福井県生まれ。東京大学工学部応用化学科卒業。工学博士。技術士(化



学)。児童文化研究者。作品は「おはなしのほん」「だるまちゃん」「からだのほん」各シリーズのほか、「とちやんはどこ」「うつくしい絵」伝承遊び考」等多数。2008年菊池寛賞・2018年巖谷小波文芸賞など多数受賞。

▼定員 40人(先着順)
 ▼申込み 2月7日(金)から電話または、図書館カウンターにて受付(先着3名の託児あり。要相談)

定期購読している雑誌をご寄贈ください

図書館では、様々な分野の雑誌を提供するため、雑誌を寄贈して下さる方を募集しています。
 ▼対象 本館または分館に、現在刊行中の雑誌を継続して一年間以上寄贈していただける方
 ▼寄贈方法 週刊誌は、発売日の翌日、月刊誌等は発売日から10日以内に本館または分館にお持ちください。
 ▼雑誌の内容 図書館の蔵書としてふさわしいもの(要相談)

郷土資料館情報

歴史講座
 「大磯町助役日誌を読む
 ―よみがえる百年前の大磯―」

郷土資料館が主催している古文書解読クラブでは、大正時代に当時の大磯町の助役(現在の副町長)が書いた日誌を解読しています。解読の結果の一部を、歴史講座として発表します。
 ▼内容 助役の日誌のうち、大正4年10月から大正5年12月の約一年間に書かれた部分を、当時の時代背景を踏まえながら紹介します。発表者は、富田三紗子(郷土資料館学芸員)・古文書解読クラブ会員です。

▼とき 2月16日(日) 14時～16時頃
 ▼ところ 郷土資料館研修室
 ▼定員 30名(申込み不要、先着順)
 ◎大正時代の大磯

大物政治家たちが別荘を構え、海水浴場を目当てに東京から多くの富裕層が遊びに来ることで知られるようになった大磯。大正時代になるとその好況は、やや落ち着いていました。世界は第一次世界大戦の真っ只中、町の大きな課題は中郡役所の移転問題、そのような中、新任の助役はどのような毎日を過ごしていたので

でしょうか。助役の目を通して見る大磯の様子は、私たちに別荘地大磯の新たな側面を教えてくれます。

今から約百年前に大磯でまさに起きた出来事を、ナマの資料から一緒に学んでみましょう。

資料館資料18
 「大磯町助役日誌」を
 刊行しました

「大磯町助役日誌」の解読文を史料集として刊行しました。郷土資料館で販売しています。歴史講座と併せてご利用ください。



▲日誌の原文は、くずし字です

旧吉田茂邸内解説

2月は8日(土)・22日(土)に、邸内解説を行います。今回は会期中の「吉田茂 暮らし展」の内容も含め、吉田の暮らしのうち「衣」に焦点をあてて解説します。ご希望の方は、14時に旧吉田茂邸受付までお越しください。入館は、有料です。